

破れ太鼓 公開 1949年12月1日 上映時間 109分

『破れ太鼓』（やぶれだいこ）は、1949年に公開された木下恵介監督、松竹製作の日本映画。

スタッフ

監督・脚本：木下恵介 脚本：小林正樹 撮影：楠田浩之 美術：小島基司 音楽：木下忠司

出演者

津田軍平：阪東妻三郎

妻・邦子：村瀬幸子（俳優座）

長男・太郎：森雅之

次男・平二：木下忠司

三男・又三郎：大泉滉（文学座）

長女・秋子：小林トシ子（NDT）

次女・春子：桂木洋子

四男・四郎：大塚正義

叔母・泰子：沢村貞子

野中茂樹：宇野重吉

父・直樹：滝沢修

母・伸子：東山千栄子（俳優座）

経理部長・木村：小沢栄（俳優座）

花田輝夫：永田光男

洗濯屋：青山宏

女中うめ：賀原夏子（文学座）

火見櫓番人：玉島愛造

津田家の主人軍平は土建屋で、過去は腕と度胸で危い橋をわたってきた男で、無教育でごう漫で、そして暴君であった。家族に対してもおれのお蔭でみんなしあわせに暮せるんだと思っているから、妻や子供はみんな自分に感謝し尊敬していると思っている。だが――父の会社につとめている長男太郎は叔母素子と共同でオルゴール製造会社をやろうとし、音楽家志望の二男平二はオヤジをふう刺した「破れ太鼓」という歌をつくって弟妹にきかせてる。三男又三は医学生、四男四郎は中学生、長女秋子は父の会社の出資主の息子花田輝夫に嫁にいけといわれていて、相手に愛情もないのに交際していたが、ふとしたことから青年画家野中と愛し合う。次女の春子は女学生。兄妹みんな仲よく母を慕って楽しい家庭なのだが軍平が帰ってくるとその団らんはこわれ、軍平の圧力の前に屈して去勢されたようになってしまうのだ。この二つの雰囲気は到々爆発するときがきた。――太郎がオルゴール会社のことを父に説き、反対された上なぐられ、太郎は家を出て叔母素子のもとに走った。秋子は昨日までの秋子でなかった。恋に生きる強い女になっていた。輝夫との婚約のことでついに父のゲキリンにふれ決然として家を出た。秋子をなぐる軍平に、今まで絶対服従だった妻邦子まで、今や軍平の前に立ちふさがり彼女もまた良人のもとを離れて家を出るに至る。母のあとを追って子供たちもみんな一しょに出てしまった。そのころ軍平の会社は金づまりと、秋子と輝夫のことで資本主は手を引き、ついに暗礁にのりあげた。昨日に変わる失意の軍平は今こそ孤独の自分を知り人生の悲哀を感じたのだ。叔母素子のもとでオルゴール製造に当って楽しい勤労を実践中の太郎や母邦子、秋子たちももともと自分たちの良人であり父である軍平を心から憎んでいるわけではなかった。みんなは心よく失意の軍平を自分たちの温い雰囲気の中へ迎え入れてやるのだった。